

平成 21 年度～23 年度 習志野市事務事業評価表

1. 事務事業基本情報

事業名	No.4 コミュニティバス運行事業				担当課	企画政策課			予算費目名	款	項	目						
事業概要及び目的	公共交通不便地域の解消及び市民の市内移動の利便性向上を目指し、コミュニティバスの実証運行を行う。実証運行については、運行経費の約半分を運賃等で賄うことができる目標乗車人数を設定し検証するとともに、運行計画の評価を行うために、フォローアップ調査を実施する。また、調査結果に基づき運行計画の見直しを行うと共に、目標を達成したルートから順次、事業の実施主体を民間バス事業者とする本格運行へと移行させる。				成果指標	実証運行については、運行経費の2分の1を賄うために必要な乗車人員。本格運行については、運行経費の3分の2を賄うために必要な乗車人員			年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度					
					計画値	平成 20 年度 全ルート実証運行	平成 21 年度 津田沼：本格運行 大久保・実鞆：実証運行	平成 22 年度（5月以降） 全ルート本格運行	予算額（単位：円）	100,389,663	108,784,400	85,863,000	61,934,000					
						1,230 人/日 内訳 津田沼 660 人/日 大久保 170 人/日 実鞆 400 人/日	1,880 人/日 内訳 津田沼 1,230 人/日 大久保 330 人/日 実鞆 320 人/日	1,610 人 内訳 津田沼 1,200 人/日 大久保 410 人/日	決算額（単位：円）	100,347,713	93,245,803	81,905,839						
従事職員数	3			4			4											
事業の位置づけ	章	3	安全で安心な暮らしができるまち		★左記施策（号）との結び付き コミュニティバス運行事業においては、市民にとって最も身近な利用しやすい交通手段としての運行を図りつつ、経費と効果のバランスについて検証し、バス事業者による自主運行へ移行できるよう努力する。このことにより、公共交通網の充実が図られるとともに、安全で安心な暮らしができるまちの実現に資することになる。	従事延べ日数	208			260			338					
	節	3	快適な生活環境の創造			民間活力の導入	現状は？：■実現している □将来可能性はある □将来困難だが可能性はある □余地なし											
	項	1	都市基盤の整備・充実				相手は？：□市民 □市民活動団体 ■企業・学校等											
	号	2	公共交通網の充実				形態は？：実証運行については事業委託、本格運行については補助金交付											

2. 進捗状況 平成 21 年 7 月 17 日記入 平成 22 年 7 月 7 日記入 平成 23 年 4 月 22 日記入

年度	21 年度評価（20 年度実施した事項についての評価）				22 年度評価（21 年度実施した事項についての評価）				23 年度評価（22 年度実施した事項についての評価）																																																											
実施計画上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	継続	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計画 上の予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	継続	★継続している事項、 未着手事項がある理由	実施計 画上の 予定	実施	実施計画の予定 年度終了後	継続	★継続している事項、 未着手事項がある理由																																																						
完了した事項	・京成津田沼駅ルートにおける実証運行事業				・実鞆駅ルートにおける実証運行事業 ・京成大久保駅ルートにおける実証運行事業				本格運行については、運賃収入等により、運行経費全体を賄うことができなかったため。市内公共交通不便地域の解消に関する研究については、今後の公共交通のあり方について、様々な角度からの研究をする必要があるため。				・実鞆駅ルートにおける実証運行事業 ・京成大久保駅ルートにおける実証運行事業																																																							
継続している事項	・京成大久保駅ルート、実鞆駅ルートにおける実証運行				・京成津田沼駅ルートにおける本格運行				市内公共交通不便地域の解消に関する研究については、今後の公共交通のあり方について、様々な角度からの研究をする必要があるため。				・京成津田沼駅ルートにおける本格運行 ・京成大久保駅ルートにおける本格運行																																																							
未着手事項	・コミュニティバスにおける広告の取り組みによる財源の確保（バス車内、バス停留所命名権等）				・市内に残された公共交通不便地域における対応策の研究				市内に残された公共交通不便地域における対応策の研究				・市内に残された公共交通不便地域における対応策の研究																																																							
改善案	実証運行については、平成 21 年 5 月よりルートやダイヤ等の運行計画を再編した上で継続している。また広告の取り組みによる財源の確保については、平成 21 年 7 月より開始する運びとなっている。				市の補助率を圧縮するために、広告の取り組みによる財源の確保を進めること。				広告の取り組みなど、収入増加策の検討を行うこと。				成果指標																																																							
	<table border="1"> <tr><td>実績値</td><td>1,160 人/日</td><td>達成率</td><td>94%</td></tr> <tr><td>内訳</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>津田沼</td><td>816 人/日</td><td>124%</td><td></td></tr> <tr><td>大久保</td><td>108 人/日</td><td>63%</td><td></td></tr> <tr><td>実鞆</td><td>237 人/日</td><td>59%</td><td></td></tr> </table>				実績値	1,160 人/日	達成率	94%	内訳				津田沼	816 人/日	124%		大久保	108 人/日	63%		実鞆	237 人/日	59%		<table border="1"> <tr><td>実績値</td><td>1,419 人/日</td><td>達成率</td><td>75%</td></tr> <tr><td>内訳</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>津田沼</td><td>878 人/日</td><td>71%</td><td></td></tr> <tr><td>大久保</td><td>383 人/日</td><td>116%</td><td></td></tr> <tr><td>実鞆</td><td>158 人/日</td><td>49%</td><td></td></tr> </table>				実績値	1,419 人/日	達成率	75%	内訳				津田沼	878 人/日	71%		大久保	383 人/日	116%		実鞆	158 人/日	49%		<table border="1"> <tr><td>実績値</td><td>(5月以降) 1,265 人/日</td><td>達成率</td><td>79%</td></tr> <tr><td>内訳</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>津田沼</td><td>862 人/日</td><td>72%</td><td></td></tr> <tr><td>大久保</td><td>403 人/日</td><td>98%</td><td></td></tr> </table>				実績値	(5月以降) 1,265 人/日	達成率	79%	内訳				津田沼	862 人/日	72%		大久保	403 人/日	98%	
実績値	1,160 人/日	達成率	94%																																																																	
内訳																																																																				
津田沼	816 人/日	124%																																																																		
大久保	108 人/日	63%																																																																		
実鞆	237 人/日	59%																																																																		
実績値	1,419 人/日	達成率	75%																																																																	
内訳																																																																				
津田沼	878 人/日	71%																																																																		
大久保	383 人/日	116%																																																																		
実鞆	158 人/日	49%																																																																		
実績値	(5月以降) 1,265 人/日	達成率	79%																																																																	
内訳																																																																				
津田沼	862 人/日	72%																																																																		
大久保	403 人/日	98%																																																																		

3. 今後の方向性 ※課内協議を経て管理職が記入してください。 平成 21 年 7 月 24 日協議実施 平成 22 年 7 月 27 日協議実施 平成 23 年 4 月 28 日協議実施

今後の方向性	平成 21 年 7 月 24 日協議実施					平成 22 年 7 月 27 日協議実施					平成 23 年 4 月 28 日協議実施				
*根拠欄は、なぜその「成果の方向性」を選んだか？なぜその「コストの方向性」をえらんだか？別紙「評価の視点」を参照してください。	成果の方向性	拡充	現状維持	縮小	休廃止	成果の方向性	拡充	現状維持	縮小	休廃止	成果の方向性	拡充	現状維持	縮小	休廃止
	コストの方向性					コストの方向性					コストの方向性				
★上記を選択した根拠	コミュニティバス運行事業は、市内公共交通を担う民間バス事業者が自主的・自立的に取り組むことができるよう、行政コストを軽減しつつ、市民の利便性の向上を効果的に図るようにはしていかなければならない事業である。					★上記を選択した根拠 同左					★上記を選択した根拠 同左				
方向性を実現するため実施すること（改革案）	・大久保ルートの本格運行への移行 ・実鞆ルートへの廃止も含めた検討 ・デマンド型の公共交通の研究					地域主体による新たな公共交通システムの研究を行う。					広告の取り組みなど、バス事業者の収入増加策について検討を行う。				
前年度改革案の実施状況	■実施 □一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。 津田沼ルートは本格運行へ移行して財政負担を縮小するとともに、大久保・実鞆ルートの実証運行は、市民要望を取り入れたルートに変更してきた。					□実施 ■一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。 費用対効果の観点から実鞆ルートへの打ち切りに踏み切ったが、それに替わる公共交通システムの研究に着手できなかった。					□実施 ■一部実施 □検討中 □その他 ★実施以外は具体的に記載してください。 平成 23 年度から始まる後期第 2 次実施計画において、「公共交通活性化研究事業」を位置づけ研究を行うこととした。				